



「修正力」を身に付けるには・・・～全校終礼より～

先日のミラノ・コルティナ冬季オリンピックで、フィギュアスケートの三浦璃来選手・木原龍一選手(りくりゅうペア)が、日本ペア史上初となる金メダルを獲得しました。彼らの逆転劇を支えたのは完璧なスタートではなく、凄まじい「修正力」でした。

最初のショートプログラムで5位に沈み、心が折れてもおかしくない状況でしたが、彼らはフリーまでのわずかな時間で自分たちの乱れを冷静に見極め、技術も気持ちも完璧に立て直しました。その結果、フリーで世界最高得点を叩き出し、大逆転の金メダルを手にしたのです。失敗した後に自分を立て直し、より良い形に作り替える力、それこそが「修正力」です。

本当の強さとは、一度も失敗しないことではありません。失敗した瞬間に「次はこうしよう」と自分を客観的に見て、即座に直せる力のことです。彼らが本番でこれほど鮮やかな修正ができたのは、練習の段階から「もし失敗したらどう動くか」を何千回とシミュレーションし、準備してきたからです。

今の学年もあとわずかとなりました。この一年、勉強や部活などで「思うようにいかなかった」と後悔している人もいるかもしれません。しかし、それで終わりにするのはもったいないことです。その失敗を材料にして、今の自分を少しだけ「修正」してみてください。その準備さえあれば、4月からの新しい環境で壁にぶつかったとしても、皆さんはすぐに立ち上がり、より高く跳ぶことができます。皆さんが自分の失敗をどう力に変え、どんな新しい姿で4月を迎えるのか、楽しみにしています。



感謝と決意でつくる「最幸の卒業式」に向けて

卒業式は、これまで支えてくれたすべての人々に「感謝」の気持ちを表し、義務教育を終える自分たちがこれからは周りを支えていくという「決意」を伝える大切な場です。素晴らしい式にするために、全校生徒で以下の3つの視点と心がけを大切にしましょう。

1. 誰のための卒業式か?(3年生)

自分自身のために(感謝):義務教育終了という人生の節目に、感謝と決意を持って臨みます
保護者のために(成長):これまでの思い出を胸に見守ってくださる保護者の方々へ、成長した姿を見せ、感動を届けます。

学校のために(未来):「泉中生のあるべき姿」を後輩に示し、1・2年生はその姿から次年度への目標を描きます。

2. 態度は「言葉」以上に思いを伝える(全校生徒)

式の中では、一人一人が言葉で直接感謝を伝える機会はありません。だからこそ、「厳粛」(まじめで真剣、心が引き締まるさま)な態度で臨むことが、何よりも雄弁に感謝の気持ちを伝えます。ふざけたりせず、真剣に取り組むことで、会場に大きな感動が生まれます。

3. 具体的に取り組む4つのポイント(全校生徒)

身なり:卒業式にふさわしい清潔感のある頭髪・身支度をする。

所作:起立・礼・着席などの動きを、全校で美しく揃える。

返事:呼名に対して、自分の決意を込めたしっかりとした返事をする。

合唱:これまでの思いを歌声に乗せ、心を込めて合唱する。



一人一人が「厳粛」な態度を意識し、感動の涙あふれる最高の卒業式にしていきましょう。